

秋田魁新報に弊社の記事が掲載されました。

(第3種郵便物認可)

秋田さきがけ

2024年(令和6年)

大橋鉄工秋田(横手市)

けん引フック 夏にも生産

自動車部品製造の大橋鉄工秋田(横手市柳田)は今年夏をめぐりにけん引フックの生産を始める。トヨタ自動車東日本の宮城大衡工場(宮城県大衡村)や岩手工場(岩手県金ケ崎町)に納入する製品を東北で調達する狙い。溶接機1台と塗装のラインを導入するほか、新たに2人の採用を予定している。

大橋鉄工秋田はトヨタグループ1次サプライヤーの大橋鉄工(愛知県北名古屋市)の子会社。これまで本社で月18万本生産していたけん引フックの4分の1に当たる4万5千本を秋田で製造する。

けん引フックは船舶での輸送時に車体を固定するほか、故障車の移動などに使用する製品。大橋鉄工秋田では長さ212ミリ、2224ミリ、2688ミリの3種類を製造する。

今回導入する溶接機は、円状に曲げた部品の先端2カ所を本体のボルト部分と同時に溶接する「2軸同時並行溶接」とい



故障車を移動する際などに使用されるけん引フック

月4万5千本 東北のトヨタ工場納入

う技術を用いて生産性を高める。本社では外部に発注していた塗装を、秋田では自社で行う。塗料を入れた槽に部品を浸し電流を流して塗装する「カチオン電着塗装」を施し、さびを防ぐ。

投資額約2億円のうち2千万円を県のあきた企業立地促進助成事業から補助を受ける予定。部品は東北の取引先で生産する方針で、同社営業本部の江口邦彦取締役(54)は「秋田に生産を移管することで東北の復興支援にもつなげたい」と話した。

大橋鉄工秋田は2015年11月に設立。23年3月期の売上高は17億円。資本金500万円。従業員58人。

(大谷好恵)

けん引フックの生産を始める大橋鉄工秋田

